

(Ⅱ) 各研修会の概要

◆第1回合同研修会および文部科学省コミュニティ・スクール制度説明会

1. 目的 県内で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者や地域コーディネーターを対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。さらに地域学校協働活動推進に関する社会教育法の改正ならびに地方教育行政法の改正およびコミュニティ・スクールの推進について情報を発信する。
2. 主催 滋賀県教育委員会
3. 対象 (1) 「学校を核とした地域力強化プラン」関連事業実施市町担当者
(2) 上記事業の未実施市町における参加希望者
(3) 各市町生涯学習・社会教育担当者
(4) 各市町学校教育担当者
(5) 各市町コミュニティ・スクール担当者
4. 日時 平成29年5月18日(木) 13:30~16:45
5. 日程
○行政説明
○文部科学省制度説明
文部科学省初等中等教育局 参事官付 学校運営支援企画官 藤岡 謙一 氏
○講演 演題：「今後の学校・家庭・地域連携協働について」
講師：佐々木 保孝 氏
(滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」推進協議会委員、天理大学人間学部准教授)
6. 場所 県庁北新館5B会議室
7. 参加者数 41名
8. 概要

- ・行政説明では県担当者より、「学校を核とした地域力強化プラン」の概要・趣旨等説明後、補助金事務の流れや年間研修計画等本年度のスケジュール、コーディネーター等の謝金単価や補助対象外経費等、事業推進にあたっての留意点について説明し、質疑応答を設けた。
- ・文部科学省制度説明では、文部科学省企画官より、学校運営協議会制度、地教行法の改正およびコミュニティ・スクールの推進、コミュニティ・スクール導入等推進事業、社会教育法の改正および地域学校協働活動の推進に関するガイドラインについて説明を受けた。
- ・講演では、講師が行った調査結果や、全国各地の様々な事例を踏まえ、学校・家庭・地域連携協働推進の必要性や、推進に向けた課題、大切にしなければならない視点等について、具体例を示しながら説明された。

9. 参加者のアンケートより

- 制度改正のポイントが分かりやすかった。特にメリットの部分を取り上げられていて、しかも学校現場経験もある方なので説得力もあった。本市もコミュニティ・スクール導入に前向きに考えていきたいと思う。
- 学校・地域がやらされているのではなく、お互いが支え合うことの大切さ“Win Win”の関係が分かった。
- 学校という視点のみならず、地域の大人が関わっていくことでどのような効用があるのか、またどんな課題があるのかについて詳しくお話しただけはありがたい。これからの学校の在り方について深く考えるきっかけをいただくことができた。
- 演題どおり、今後の連携・協働の在り方について多くの示唆をいただき、勉強になった。



◆第2回合同研修会【地域と学校の連携・協働体制推進フォーラム】

1. 目的 地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働し、子どもたちの学びや成長を支えていくことが期待されている。そのためには、地域と学校をつなぐ役割を担うコーディネーター機能を充実させていくことが大切である。地域コーディネーター、将来的にその役割を担われる地域の方、行政や学校関係者が集い、組織的・継続的な連携・協働体制を一層推進するため、具体的方策等についても考える機会とする。
2. 主催 滋賀県教育委員会
3. 対象 (1) 「学校を核とした地域力強化プラン」 関連事業実施市町担当者
(2) 学校教職員
(3) 各市町生涯学習・社会教育担当者
(4) 各市町学校教育担当者
(5) 地域住民
4. 日時 平成29年6月21日(水) 13:30~17:00
5. 日程
○講演 演題:「これからの地域コーディネーターのあり方について」
講師:山本 裕一氏 (全国体験活動ボランティア活動総合推進センターコーディネーター)
○ワークショップ
6. 場所 滋賀県庁東館 7階 大会議室
7. 参加者数 56名
8. 概要
 - ・講演は、参加者の皆さんが4人グループになり、「子どもが抱えている課題」について意見交換するなど、和やかな雰囲気の中ですすめられた。講師より、地域と学校の連携・協働の意義や、社会教育のあり方について、豊富な経験をもとにわかりやすく解説していただいた。
 - ・後半のグループ協議では、講師のファシリテートのもと、参加者の皆さんが具体的な地域コーディネーターの役割をイメージし、各グループで熱心な議論を展開された。
 - ・意見交流やグループ発表をとおして、連携・協働のあり方を主体的に学んでいただくことができた。
9. 参加者のアンケートより
 - 答申等、かみくだいて話をしていただき、今コーディネーターに求められているものがわかった。
 - 社会教育の視点からのお話で、これまで聞いてきた話とは切り口の違う内容で学びが多かった。
 - 支援だけでなく協働していく重要性がよくわかった。開かれた教育課程で地域社会をつくっていく体制づくりの必要性を認識した。
 - 他の地域で活躍されている方との協議はおもしろかった。出てくる意見も様々で、いろんな方と話すことが大事だと思った。
 - ワークショップ形式だったので、めざす子ども像から継続的な活動に至るまで内容が深まった。
 - コミュニティ・スクールの準備期間に入ったので、今日のワークショップを参考に、目指す子ども像からしっかり論議し、しぼって明確にしたい。
 - 各校におられる家庭教育支援員さんにも活動の参考になる内容を示していきたい。
 - 地域の方、学校の先生方に、連携・協働に関する取組について、十分知っていただくために働きかける必要がある。そういった役目も担っているのだと思った。



◆第3回合同研修会（コミュニティ・スクール推進フォーラム）

1. 目的 本年3月に地教行法が改正され、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置が努力義務化されるとともに、学校運営協議会において、学校運営に関する協議のみならず、学校が必要とする支援についても協議することとなった。「文部科学省コミュニティ・スクール推進員（CSマイスター）」を講師に招き、先進的な全国の実践事例などを踏まえた講演をおとして、地域と学校との連携・協働、コミュニティ・スクール設立の方策や有効性について、理解を深める機会とする。

2. 主催 滋賀県教育委員会

3. 対象 (1) 公立幼稚園・小・中学校教職員、県立学校教職員
(2) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者、学校評議員
(3) 地域学校協働本部・地域未来塾関係者・土曜日の教育支援活動関係者
(4) 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者
(5) 家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者
(6) PTA、県・各市町社会教育委員、公民館職員
(7) 各市町担当職員
(8) 学校と地域の連携・協働体制について関心のある地域住民 など

4. 日時 平成29年8月10日（木）13:30～16:45

5. 日程

○事例発表①演題：「長浜市立湯田小学校における地域とともにある学校づくりの推進について」
（平成28年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰受賞）

発表者：長浜市立湯田小学校 教諭 尾曾 悦子 氏

長浜市立鏡岡中学校 主任事務主査 松田 幸夫 氏

○事例発表②演題：「(新校)長浜北高等学校コミュニティ・スクールの取組について」

発表者：県立長浜北高等学校 校長 梅本 剛雄 氏

県立長浜北高等学校学校運営協議会 会長 今西 肇 氏

○講演 演題：「地域学校協働活動を生かしたコミュニティ・スクールの進め方について～参加から参画～」

講師：文部科学省 コミュニティ・スクール推進員

津市立南が丘小学校学校運営協議会 会長 辻林 操 氏

6. 場所 滋賀県庁東館7階大会議室

7. 参加者数 71名

8. 概要

- ・事例発表①では、湯田小学校における地域とともにある学校づくりの推進の実際について、「湯田小フェスタ」や「湯田小ランチ」の取組について説明いただいた。
- ・事例発表②では、長浜北高等学校におけるキャリア教育の視点を生かした「地域や社会に学ぶ実践活動」の取組や生徒会代表が参加して開催された学校運営協議会での議論の様子等が紹介された。
- ・講演では、学校運営協議会制度についての説明の後、学校運営協議会の会長として取り組んでこられた実践の紹介、CSマイスターとして全国各地でコミュニティ・スクールの立ち上げ等に携わってこられた事例をもとに、地域学校協働活動を生かしたコミュニティ・スクールの進め方について経験に裏打ちされた示唆に富んだお話をいただいた。

9. 参加者のアンケートより

○講師の話にもあったように、管理職の決断が重要だと思うが、管理職研修の場でも、本日のような具体的な内容を研修できる場があればと思う。

○県内2校の事例発表は非常に興味深いものであった。後半の講演は、スケールが大きくあまりピンと来ない部分があったが、最終的な理想形がこれなのかと感じた。

○リーダーの必要性を強く感じた。また、学校運営協議会のメリットがわかり、積極的に進める必要があると感じた。今後もこのような研修会を多くしてほしい。



◆第4回合同研修会

- 1. 目的** 核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えた保護者の増加等、家庭教育の困難な現状が指摘されている。そこで、家庭教育支援関係者や子育て支援関係者等が一堂に会し、家庭教育支援のための有効な手立てを具体的な事例をもとに学ぶ機会とする。
- 2. 主催** 滋賀県教育委員会
- 3. 対象** (1) 国庫補助事業「地域における家庭教育支援総合推進事業」実施市町担当者
(2) 家庭教育支援員、家庭教育支援チーム員、子育てサポーター等
(3) 民生委員・児童委員、社会福祉士
(4) 各市町生涯学習・社会教育関係者、学校教育関係者、PTA関係者
(5) 滋賀県社会教育委員、各市町社会教育委員、公民館職員
(6) 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」に係る推進協議会委員
(7) 家庭教育支援に関心のある方
(8) 学校と地域の連携・協働体制について関心のある地域住民
- 4. 日時** 平成29年11月2日(木) 13:00~16:15
- 5. 日程**
- 講演 演題：「家庭教育支援の推進について」
講師：齋藤 憲一郎 氏（文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課家庭教育支援室長）
- 事例発表 演題：「湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」の取組について」
事例発表者：上田 さとみ 氏（和歌山県有田郡湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」スクールソーシャルワーカー）

○ワークショップ

6. 場所 滋賀県庁東館7階大会議室

7. 参加者数 39名

8. 概要

- 講演では、家庭を取り巻く環境、家庭教育支援をめぐる動きを踏まえ、身近な相談相手がいない、子育てのモデルが無いなど、家庭教育支援を行う上で保護者の悩みに寄り添うため、家庭教育支援チームの取組が有効な施策であることや地域の実情に応じた取組を展開することが重要であると御示唆いただいた。
- 事例発表では、家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」の皆さんが全戸訪問等をおして地域社会・家庭教育上の課題をどのように解決してこられたのか、「人と人がつながる家庭教育支援」をテーマに湯浅町の取組をおして発表いただいた。
- グループワークでは、先進的事例をもとに、各市町において今後望まれる家庭教育支援方策を探るグループワークを行った。

9. 参加者のアンケートより

- 国の家庭教育支援の方針をホームページで見えていたが、直接説明を伺い、大変よくわかった。」
- 大変良い機会であった。講演内容は、私たちが目指していくこれからの姿だったと思うが、追いつけるようになりたい。
- 上田さんの話は、とても身近に感じてよかった。参考にしたい。
- どのような支援が求められているのか、どのような方法があるのか、しっかり学ばせていただいた。



◆第5回合同研修会

1. 目的 事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、本年度の各市町における取組事例の発表や「地域とともにある学校づくり」に関する講演を通じて、地域の将来を担う人の育成を社会全体で支える体制づくりや今後の推進方策について、ともに学ぶ機会とする。
2. 主催 滋賀県教育委員会
3. 対象 (1) 各市町担当職員
(2) 各校・園教職員
(3) 地域学校協働本部関係者
(4) 地域未来塾関係者
(5) 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者
(6) 土曜日の教育支援活動関係者
(7) 家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者
(8) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者、学校評議員
(9) 県・各市町社会教育委員、公民館職員
(10) 地域と学校の連携・協働に関する事業関係者
(11) 教員をめざす学生

4. 日時 平成30年1月26日（金）13:30～16:40

5. 日程

- 事例発表 湖南省における地域学校協働活動の報告
(地域学校協働本部、放課後子ども教室、土曜日の教育支援、コミュニティ・スクール)
彦根市における地域学校協働活動の報告
(地域学校協働本部、地域未来塾)

日野町における家庭教育支援活動の報告

- 講演 演題：「地域の教育力の向上を図るために」
講師：NPO法人まちと学校のみらい
代表理事 竹原 和泉氏

6. 場所 滋賀県庁東館7階大会議室

7. 参加者数 89名

8. 概要

横浜市立東山田中学校での取組実践を紹介し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することが有効であることを説明いただいた。さらに、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の具体的な役割についても説明いただくなど、地域の教育力の向上を図るために、これからの「地域とともにある学校づくり」として大切な視点を認識することができた。

また、各事業の事例発表から、取組の成果や課題について御講評をいただき、今後の方向性を学んだ。

9. 参加者のアンケートより

- ・今まで、「つながり」や「協働」とはどういうことか、協働本部では何をすることが正解なのか、はっきりとわかっていなかったのですが、何でもやってみることが大切なのだと感じました。つながりをどのようにつくるのか、なぜ大事なのか、何を目指しているのかというところがよく理解できたと思います。
- ・コーディネーターとして、関わっている学校は違いますが、同じ立場の目線で、とても分かりやすく参考になりました。まだ、コミュニティ・スクールにはなっていませんが、もっと情報の共有が地域にも学校にも家庭にも必要であると感じました。学校、地域、家庭の間でもっと自分にできることを考え、交流、意見交換をしたうえで、アクションに変えていきたいと思っています。
- ・研修会に参加して大変勉強になりました。この事業のことをあまりわからなかったので学習できてよかったと思います。地域との連携をよく聞きますが、実際のところ何をすればいいのか、関わり方はどうなのか、正直面倒くさいものだと思っていましたが、講師のお話を聞いて認識が変わりました。頭だけで考えるのではなく、もっと気軽に肩の力を抜いて共に子どものためにやることや協働することは、大切なことだと思いました。

